

# 北海道自然史研究会 2010 年度役員会 資料

2010 年 4 月 7 日

事務局／さっぽろ自然調査館・渡辺修

## (1) 会計報告・予算計画

### 2009年度予算計画

収入		支出	
前年からの繰越	53,576	ウェブ管理費	3,000
会費(入会金)	10,000	郵送費等	1,500
		消耗品費	1,800
		翌年への繰越	57,276
合計	63,576		63,576

※ウェブ管理費はメーリングリスおよびウェブサイトの維持・更新作業の費用概算。

### 2009年度会計報告

収入		支出	
前年からの繰越	53,576	ウェブ管理費	3,000
		郵送費等	880
		消耗品費	440
		翌年への繰越	49,256
合計	53,576		53,576

※大会の案内は11通。会費は徴収しなかった。

上記の通り報告いたします。 事務局 渡辺 修 ㊟  
 上記の通り相違ありません。 会計監査 大原昌宏 ㊟  
 山崎真実 ㊟

2009 年度は札幌で大会を開催したが、入会金は徴収しなかった。一方、メール対応が進み、郵送会員は 11 名のみだった。上記に採集確定したものを掲載する。

### 2010年度予算計画

収入		支出	
前年からの繰越	49,256	ウェブ管理費	5,000
寄付	50,000	会場費	5,000
		消耗品費	5,000
		翌年への繰越	84,256
合計	99,256		99,256

※ウェブ管理費はメーリングリスおよびウェブサイトの維持・更新作業の費用概算。

2010 年度は札幌での大会開催を計画している。会員への案内郵送は廃止するが、各種活動、助成金関連活動などにより、消耗品費を多く見込んだ。ウェブ管理費には、大会用サイトに加えて、メインサイトを拡大しての維持・管理費も含める。助成金など申請中で、それらを含めた場合は、大幅な変更がありうる。

## (2) 助成金について

現在 2 件申請中。道新についても検討している。詳細は各申請書を参照のこと。ポータルサイト作成を基本に必要経費について申請している。

		上限	募集	決定	期間
前田一步園	○	100万	3月15日	(5月?)	~3月
財団法人 秋山記念生命科学振興財団	○	50万	3月31日	6月下	7月~6月
全労災【地域貢献助成事業】	x	30万	4月5日	7月上	9月~8月
道新野生生物基金	○	100万	4月9日	4月末	~3月

### (3) 研究大会について

2011年3月8～12日に北大で開催される生態学会本大会に合わせて北海道の自然史に関する自由集を開き、それと連動する形で大会を開催する案について。自由集会への参加は会員・参加費という制約はないよう。フィールドでの大会は2011年夏の石狩を念頭に健闘する。

### (4) ワーキンググループ等の検討

以下の作業部会を設立する。事務局で運営し、会員の参加は自由（ある程度先に募集して固定）。役員などで中心的に関わる形で担当してもらう。

- A. 研究報告誌編集委員会（仮）
- B. ウェブサイト製作ワーキンググループ（仮）
- C. 自然史紹介作品製作ワーキンググループ（仮）

A.は人は絞った形で、校閲者はお願いする形か。B.はスキルを持つ人の募集も。C.は中身を製作する人の募集も。

討議については定期的な集まりのほか、全体MLで情報共有・議論する。個別のMLなどは特段設けない。日程調整やデータの送付などは、事務局 [n-h@cho.co.jp](mailto:n-h@cho.co.jp) に送付する形。

#### ■ 会員への調査項目案

##### 参加についての連絡

3つのグループに参加したい人をMLで募集します。

関わり方（製作したい、データ等提供したい、集まれる、メール等で意見）の確認もしたいので、その辺もつけてください。

##### 製作に当たっての参考情報の収集（アンケート）

以下について回答を寄せてください。

##### ウェブについて

- ・よく見る、参考になる自然史系のサイトを教えてください。
- ・ポータルサイトにぜひ入れたい（紹介したい）施設、人（スタッフ）など挙げてください。
- ・自然史文献アーカイブへの参加協力の可能性や形について。ご自身で管理・携わっている研究報告誌や標本目録、講演・観察会記録を自然史研究会でデジタル化し、サイトへアップ・公開するのは可能ですか。その際に課題となることなどあれば教えてください。

全文公開は著者の認が必要、出版物の販売があるので無料一般公開は難しい、等

- ・ウェブ製作を手伝える人、担当できる人がいれば紹介してください。

##### 研究報告誌等について

・主に調査研究成果を口頭発表をしている場が道内にありますか。あれば教えてください。論文を投稿したことがあるメディア名（道内）は。

・会として独自の研究報告誌を創設した場合、投稿したいと思いませんか。継続的に可能ですか（ペース）。分野としては、学術論文、調査報告、普及活動報告、意見・解説など、どのようなものを重視したいですか。投稿に制約を設ける場合、どのような基準とすべきと思いませんか。

- ・会の研究報告誌に求める役割として特に重要なことを教えてください。
- ・会の研究報告誌ができた場合、合流・統合が可能そうな会誌などありましたら、教えてください。  
(例えば、継続して出したいとは思っているが、編集や印刷コストが重荷であるというときに、研究報告誌に投稿してもらって、編集・出版を代行するイメージです。まとめてやればコストダウンになり、会員の人は同じ会費で他の報告も読める、といった形を考えています)

グッズ製作(自然史紹介作品)

- (一般市民向けのハンドブック・観察カード・ペーパークラフトなどの配布・販売物)
- ・現在周りで製作/販売されている作品、良い/面白いと思う作品があれば教えてください。
- ・紹介ハンドブックシリーズでネタになりそうなもの、自分がかけそう、書きたいというテーマを教えてください。
- ・ミュージアムショップなどで扱うのに良いグッズのアイデアがあれば教えてください。
- ・デザイン・製作を担当できる人をご存知でしたら、ご紹介ください。
- ・各施設などで製作物を販売する場合、課題となることがあれば教えてください。  
(頒布品でないと置けない、卸値や数量の制限があるなど)

## (5) 研究報告誌、ウェブサイトの基本方針

(別紙参照)

### ① 重視すること

- (a) 継続性...信頼性の向上。場作りでもあるため。
- (b) 公開性...広く閲覧・利用されることに重点を置く ⇒ “電子出版元年”  
現状では地域の博物館報告での発表はウェブ的には死蔵されたと等しい。
- (c) 一覧性と情報の網羅...ポータルサイトの必要条件。会員のネットワーク活用。

### ② 電子化における利点・特徴

- (a) 検索システムの深化により、ウェブ上にあることの意義が大きくなった。情報の「匿名化」ではなく、「肩書き・組織によるラベリングからの解放」。
- (b) ソーシャルネットワークによる情報の活用が適している(市民・研究双方に)。
- (c) 収益より広く読んでもらうことが目的のものがほとんど。
- (d) 現状では大学・学会の情報のみが流通。幅広い層の参加がカギとなる自然史研究においては、参加しやすい場・記録が残せる場が必要。
- (e) リアル(北海道の自然)とのひも付けがあり、クラスター化しやすい。ポータルサイトの意義が高い。

### ◆電子出版最近の動き(2009~2010初)

- ・端末 ⇒ Kindle・Sony Readerの普及、iPhone・PC版Kindleの提供、nook・iPadの発売 日本ではソニーリブレ撤退後消滅、今年iPad・Kindleが上陸?
- ・日本 ⇒ 電子出版協会の設立、電子版日本経済新聞の創刊、電子雑誌実証実験 parara(パララ)、デイリースポーツの試験公開など。
- ・フォーマット ⇒ Kindle形式、EPUB(Sony, Googleなど)、青空文庫
- ・2010/2 意識調査 ⇒ 電子書籍を読んだことがあるという人(61.8%) ⇒ 「携帯電話」(68.4%)、「PC」(44.7%)、「iPhone」(32.0%)、「電子辞書」(6.6%)、「PDA」(6.3%)、「キンドル」1.5%。

◆ 現況の例

Googole ブックス (700 万冊) <http://books.google.com/> とスカラ <http://scholar.google.com/>  
 米国版 Kindle⇒Amzon.com で books と並行して販売 (41 万冊)。Kindle Price: \$9.99

	国会図書館	Amazon	Kindle Books	Googole Books	国会図書館	CiNii	HUSCUP	Google Scholar
ナキウサギ	18	100	-	17	50	67	4	53
pika		508	0	1254				約15,600
マルハナバチ	14	98	-	40	165	326	1	129
bumblebee		636	11	1549				約23,500
折り紙	426	2503	-	476	201	371	13	1720
origami		2453	9	837				約12,700

◆ 電子ブックの課題

- ・ レガシーメディアとの戦い    マスメディアの寡占ビジネス、著作権、再販制度
- ・ 信頼性の付与、判断基準の提供
- ・ ソーシャルネットワークの形成 (電子化の意義の一つが安定的・効果的にするには工夫)
- ・ 端末と流通ルートの普及
- ・ 購入しやすいビジネスモデルの構築 ⇒ フリーミアム、非貨幣型 (情報集約参加)

(6) 会員の追加、施設・雑誌情報の整備

随時お願いします。

# 自然史紹介作品製作ワーキングについて

## ■北海道自然史ハンドブックシリーズ 事例となるもの

### ○各博物館の小冊子シリーズ、企画展資料、観察会資料

非売品、無料配布、300～500円程度での販売？  
知床では長くシリーズ化

### ○文一総合出版 ハンディハンドブックシリーズ

新書判 80ページ

- ・最近発行ラッシュ(好評?)。形式は統一されているが、中身は著者次第でさまざま。
- ・キーブック(同定用ミニ図鑑)の色彩が強い。
- ・見た目の割りに値段が高く感じる。もっと値段抑えると、購買層が広がるのではないか。
- ・テーマ的には参考になる。北海道版にすぐに落とし込めよう。

1 アリハンドブック 寺山 守 久保田 敏 (2009/12)	¥1,470
2 海辺で拾える貝ハンドブック 池田 等 松沢 陽士 (2009/7)	¥1,470
3 樹液に集まる昆虫ハンドブック 森上 信夫 (2009/7)	¥1,470
4 冬虫夏草ハンドブック 盛口 満 安田 守 (2009/6/6)	¥1,470
5 日本のカミキリムシハンドブック 鈴木 知之 (2009/6)	¥1,470
6 海辺の漂着物ハンドブック 浜口 哲一 (2009/5)	¥1,260
7 オトシブミハンドブック 安田 守 沢田 佳久 (2009/5)	¥1,260
8 朽ち木にあつまる虫ハンドブック 鈴木 知之 (2009/4)	¥1,470
9 昆虫の集まる花ハンドブック 田中 肇 (2009/3)	¥1,260
10 サクラハンドブック 大原 隆明 (2009/2)	¥1,260
11 野鳥の羽ハンドブック 高田 勝 叶内 拓哉 (2008/10)	¥1,470
12 紅葉ハンドブック 林 将之 (2008/9/20)	¥1,260
13 新訂 ワシタカ類飛翔ハンドブック 山形 則男 (2008/9)	¥1,470
14 日本のクワガタムシハンドブック 横川 忠司 (2008/7)	¥1,470
15 花火ハンドブック 冨木 一馬 (2008/6)	¥1,260
16 淡水産エビ・カニハンドブック 山崎 浩二 (2008/4/10)	¥1,260
17 オタマジャクシハンドブック 松井 正文 関 慎太郎 (2008/3)	¥1,470
18 シダハンドブック 北川 淑子 (2007/10/10)	¥1,260
19 昆虫の食草・食樹ハンドブック 森上 信夫 林 将之 (2007/4/1)	¥1,260
20 海鳥識別ハンドブック 箕輪 義隆 (2007/1)	¥1,470
21 野鳥と木の实ハンドブック 叶内 拓哉 (2006/11)	¥1,260
22 樹皮ハンドブック 林 将之 (2006/10)	¥1,260
23 水生生物ハンドブック 刈田 敏 (2006/9)	¥1,260
24 ベリーハンドブック 木原 浩 (2006/8)	¥1,260
25 土の中の小さな生き物ハンドブック 皆越 渡辺 (2005/10)	¥1,470
26 コウモリ識別ハンドブック コウモリの会 (2005/8)	¥1,260
27 シギチドリ類ハンドブック 氏原 巨雄 氏原 道昭 (2004/4/27)	¥1,260
28 虫こぶハンドブック 薄葉 重 (2003/6)	¥1,260
29 ワシタカ類飛翔ハンドブック 山形 則男 (2003/5)	¥1,260
30 水生生物ハンドブック 刈田 敏 (2003/1)	¥1,260
31 カモメ識別ハンドブック 氏原 巨雄 氏原 道昭 (2000/9)	¥1,050
32 カモハンドブック 叶内 拓哉 (2000/9)	¥1,050
33 マルハナバチ・ハンドブック 鷲谷 いづみほか (1997/4)	¥1,260

### アマゾン売れ行き

- 1 樹皮 (2006/10)
- 2 新訂 ワシタカ類 (2008/9)
- 3 昆虫の食草・食樹(2007/4/1)
- 4 野鳥と木の实 (2006/11)
- 5 昆虫の集まる花 (2009/3)
- 6 アリ (2009/12)
- 7 紅葉 (2008/9/20)
- 8 海辺の漂着物 (2009/5)
- 9 野鳥の羽 (2008/10)
- 10 シダ (2007/10)

・地味に植物系が人気だ  
・実際に確かめられるものが求められているように思う。

### ○エコネットワーク

#### 絵とき検索表1～3

A5判 60ページ ¥1,000

・フラワーソーン発祥で市民向けだが、かなり歯ごたえあるものを含むキーブック。俊さん容赦ないのが、難しいところ。

ペーパークラフト、折り紙、オブジェ等、グッズ色の強いものも検討してみたい。



## ■北海道自然史ハンドブックシリーズ 企画案

- ・各自の持ちネタ、写真ネタで製作できるような小テーマ単位のハンドブック(24p.～80p.)。パラタク講座とも連動可能？
- ・ボリュームを抑えてテーマを設定する。買いやすく、つくりやすくする。
- ・観察会用、授業用にフィールドで長く使えるもの。各地域でお互

### ○テーマの例

- ・見分け図鑑主体…カタツムリ・クワガタ・木の子ども・スマレ類・水草
- ・特定種・グループの生態紹介…ナキウサギ・ザリガニ

### ○価格設定・販売戦略

- ・各施設・大学・特定店舗での販売+ウェブで、ターゲットはカバーできるのでは。
- ・一般流通に乗せる必要性薄い。⇒ 自費出版
- ・2000部発行なら、1部500～1000円の価格設定可能(※直販なら×0.7、データダウンロードなら×0.5～0.3)。「著者1割」印刷・編集5割「出版1割」「流通3割」

## 道内の博物館研究報告一覧（ニュースレター・たより・施設報告除く）

HP: ●独自サイト ○サイトあり △紹介ページのみ Web: ●全文データあり ○要旨のみ △目次のみ ×なし

No	施設	エリア	名称	HP	Web	タイトル	出版年月	最新	判型	ISSN
1	101	1道南	市立函館博物館	○	●*	市立函館博物館研究紀要	1990～現在	19号	A4	
2	203	2後志	小樽市総合博物館	○	△	小樽市総合博物館紀要(小樽市博物館紀要)	1962～2008～現在	22号	A4	0918-7200
3	204	2後志	よいち水産博物館	△	×	余市水産博物館研究報告	1998～現在	10号	A4	
4	301	3胆日	苫小牧市博物館	○	×	苫小牧市博物館館報(苫小牧市博物館研究報告)	1991～2002～現在	12号	A4	
5	305	3胆日	えりも町郷土資料館・水産の館	●	△	えりも研究—えりも町郷土資料館調査研究報告	2004～現在	6号	A4	1349-0907
6		3胆日	新冠町郷土資料館	△	×	新冠町郷土資料館調査報告	1989～1991	3号		
7	307	5空知	むかわ町立穂別博物館	○	×	むかわ町立穂別博物館研究報告(穂別町立博物館研究報告)	1984～現在	24号	A4	1882-5249
8	401	4石狩	北海道開拓記念館	●	△	北海道開拓記念館研究紀要(研究年報)	1972～1995～現在	37号	A4	1341-2795
9	402	4石狩	北海道大学総合博物館	○	●*	北海道大学総合博物館研究報告	2003～現在	4号	A4	1348-169X
10	404	4石狩	札幌市豊平川さけ科学館	●	●*	札幌市豊平川さけ科学館館報	1989～2002	16号	A4	
11	405	4石狩	石狩海浜植物保護センター	○	●	石狩海浜植物保護センター調査研究報告	2006～現在	8号	A4	
12	501	5空知	滝川市美術自然史館(滝川市郷土館)	△	×	滝川市郷土館研究年報	1983			
13	504	5空知	三笠市立博物館	△	○	三笠市立博物館紀要 自然科学	1997～2005	9号	A4	1344-2295
14	511	5空知	星の降る里百年記念館	△	×	星の降る里百年記念館年報	1994～現在	16巻	B5	
15	601	6十勝	帯広百年記念館	○	△	帯広百年記念館紀要	1983～現在	27号	A4	0289-8179
16	602	6十勝	上士幌ひがし大雪博物館	△	△	上士幌町ひがし大雪博物館研究報告(ひがし大雪博物館館報～4号)	1975～1980～現在	31号	B5	0915-5074
17	603	6十勝	足寄動物化石博物館	○	×	足寄動物化石博物館紀要	2000～現在		A4	1345-5044
18	604	6十勝	浦幌町立博物館	△	×	浦幌町立博物館紀要(浦幌町郷土博物館報告)	1971～1996 2001～現在	9号	A4	
19	701	7根釧	釧路市立博物館	○	×	釧路市立博物館紀要(釧路市立郷土博物館紀要)	1972～1983～現在	32輯	A4	0912-1897
20	711	7根釧	阿寒国際ソルセンター	○	×	阿寒国際ソルセンター紀要	2000～現在	8号	A4	
21	702	7根釧	標茶町郷土館	△	×	標茶町郷土館報告	1985～現在	21号	B5	1882-7322
22	704	7根釧	根室市歴史と自然の資料館	○	△	根室市歴史と自然の資料館紀要(根室博物館開設準備室紀要)	1986～2004～現在	21号	B5	0912-599X
23	801	8北網	北網圏北見文化センター	○	×	北見郷土博物館紀要	1971～1985		A4	
24	802	8北網	斜里町立知床博物館	○	●*	知床博物館研究報告(しれとこ資料館報告)	1979～現在	30集	B5	0387-8716
25	803	8北網	美幌博物館	○	△	美幌博物館研究報告	1991～現在	15号	B5	1340-5373
26	805	8北網	網走市立郷土博物館	△	×	網走市立郷土博物館報告	1967～1968			
27	806	8北網	紋別市立博物館	△	×	紋別市立郷土博物館報告	1988～1999	11号		
28	807	8北網	北海道立北方民族博物館	●	△	北海道立北方民族博物館研究紀要	1992～現在	17号	B5	0918-3159
29	901	9道北	旭川市博物館(旭川郷土博物館)	○	●*	旭川市博物館科学館研究報告・旭川市博物館研究報告(旭川郷土博物館研究報)	1959～1970～92 1995～現在	13号	A4	1341-4119
30	902	9道北	士別市立博物館	△	×	士別市立博物館報告	1983～現在	26号	B5	
31	903	9道北	利尻町立博物館	△	●*	利尻研究(利尻町立博物館年報)	1982～1993～現在	28号	A4	0919-9160
32	904	9道北	大雪山国立公園 層雲峡ビジターセンター	○	△	層雲峡ビジターセンター研究報告(層雲峡博物館研究報告)	1981～2001～2007	27号	A4	
33	905	9道北	名寄市北国博物館	△	△	北国研究集録	1997～現在	11号	A4	1343-0580
34	910	9道北	中川町エコミュージアムセンター 自然誌博物館	○	△	中川町郷土資料館紀要 自然誌の研究	1998～現在	7号	A4	1343-9871
35		9道北	海のふるさと館(留萌市)	○	×	留萌市海のふるさと館紀要	1990～現在	20号	A4	

## 道内の一般向け自然雑誌など

HP: ●独自サイト ○サイトあり △紹介ページのみ Web:●全文データあり ○要旨のみ △目次のみ ×なし

No	エリア	名称	HP	Web	タイトル	出版年月	最新	判型	ISSN
		(樞書店)	●	×	北海道の自然と生物	1989～1996	10号	B5	0915-5821
		ギミック	●	×	ライズ	1989～1995	No. 5	A4	
		道新野生生物基金	○	×	モーリー	1999～現在	No. 21	B5	
		ナチュラルー	○	△	ファウラ faura	2003～現在	No. 26	A4	
		北方林業会	○	△	北方林業	1949～現在	Vol. 62	B5	0388-8045

## 市民グループ発行の雑誌など

No	エリア	名称	HP	Web	タイトル	出版年月	最新	判型	ISSN
		北海道自然保護協会	○	△*	北海道の自然	1982～現在	No. 47	A4	
		北海道教育大学			生物教材	1968～2001	36号		
		北方山草会	×	×	北方山草	1979～現在	26号	B5	
		北海道植物友の会	○	●*	苔多尼訶	1986～現在	27号	B5	1347-3336
		エコ・ネットワーク	○	△	ワイルドライフレポート	1985～2001	No. 19	B5	
		自然史研究ネットワーク 2000「みなみ北海道」	●*	△*	Oshimanography	1994～現在	15号	A4	1341-0628
		野幌研究会	○	×	野幌研究	2002～2003	2号	B5	1347-2496
		日高の森と海を語る会	×	×	くらむぼん				
		北海道野生植物研究所	×	×	北海道野生植物研究所報告	1996～現在	No. 38	B5	
		調査館	●	△	調査館通信	1997～現在	34号	B5	
		北海道生物教育会	●*	△*	北海道生物教育会誌				
		北海道昆虫同好会	●	△*	Jezoensis 雪蟲 うすばき	1974～現在	36号		
		北海道トンボ研究会	○	×	北海道トンボ研究会会報	1986～現在	8号		
		釧路昆虫同好会	○	×	SYLVICOLAシルビコーラ とびむし		23号		
		道南虫の会	×		道南虫の会会報				
		函館昆虫同好会	×		アイノ、エゾシロ				

色塗りは現在も発行している雑誌

### 研究誌 製作コスト試算

A4判本文モノクロ、表紙フルカラー

	500部	販売	マイナス
56頁	250,000	¥500×200	-150,000
100頁	300,000	¥750×200	-150,000
160頁	450,000	¥1000×200	-250,000

	1000部	販売	マイナス
56頁	300,000	¥300×400	-180,000
100頁	400,000	¥500×400	-200,000
160頁	550,000	¥750×400	-250,000

1号あたり慎重に見ても20万程度の負担で住むと考えられる。これは編集費程度に相当する。まとまった号のみ助成金などを使ってもよい。

事務局で仮に作成しましたので、お持ちの情報で追加・修正・削除などしていただけると幸いです。

道内自然史系施設のリストとホームページの整備状況(2010/2暫定)

HP: ●独自サイト ○サイトあり △紹介ページのみ  
Web: ●全文データあり ○要旨のみ △目次のみ ×な

リンク 北海道文化資源データベース  
インターネットミュージアムhttp://www.museum.or.jp/  
日本の科学館めぐり http://museum-dir.jst.go.jp/

新No	エリア	名称	所有	設立	改修	職員	学芸員	研究会 学芸員	HP 201 0	HP 200 4	展示 解説	行事 案内	便利 NL	紀要・研究報告		友の会・ファン クラブ等	リンク			職員				
														Web	名称		名称	文化 資源	イ M u s	科学 館	合計	学 芸 員	専 任	兼 任
101	1道南	市立函館博物館	市	1878		佐藤(鳥)	1		○	●	○	○	●	●	研究紀要	函館博物館友の会	○	△	○	9	4	3	1	1
102	1道南	北海道大学総合博物館分館 水産資料館	国	1958					○	○	○	×	×				○	○						
201	2後志	黒松内町ブナセンター	町			高橋(地質)	2	△	○	○	○	○	●				○	○						
202	2後志	倶知安風土館	町	2002		岡崎(昆虫)	1	○	○	○	○	○	●											
203	2後志	小樽市総合博物館	市	1956		山本(昆虫)	3?	○	○	△	△	○	×	△	紀要・調査報告書		○	○	8	2	3	2	1	
204	2後志	よいち水産博物館	町				1?		△	○	△	×	×	×	研究報告		△							
301	3胆日	苫小牧市博物館	市	1985		吉田(昆虫)小 玉(植物)	4	○	○	○	○	○	●	×	研究報告		○		9	4	4		1	
302	3胆日	のぼりべつクマ牧場・ヒグマ博 物館	民	1958		前田(ほ乳類)	1	○	○	○	○	○	×				○	○						
303	3胆日	洞爺湖ビジターセンター・火山 科学館	国			(環境省)		△	○	△	○	○	×				△	○						
304	3胆日	日高山脈館	町		1999	東(地質)	1	○	○	○	○	○	×					○	○					
305	3胆日	えりも町郷土資料館・水産の 館	町			中岡(ほ乳類)	1	○	●	○	○	△	×	△	紀要『えりも研 究』	えりも町郷土資 料館N42°の 会	○							
306	3胆日	えりも町風の館	町	1997		石川(ほ乳類)		○	●	○	○	○	×				○	○	0					
307	3胆日	むかわ町立穂別博物館	町	1982		桜井(古生物)		○	○	△	○	△	●	×	研究報告		△	○	○					
308	3胆日	三松正夫記念館(昭和新山資 料館)	町						△	△	△	×	×					△						
309	3胆日	アイヌ民族博物館	財	1984	1990		4		●	○	○	○	●											
310	3胆日	蒲河町立郷土博物館	町	1981					△	△	△	×	×						5	1			4	
311	3胆日	北海道大学苫小牧研究林	国						△	○	○	×	×					△						
312	3胆日	苫小牧市科学センター	市	1970					○	○	○	○	○					○						
	3胆日	新冠町郷土資料館	町						△	○	△	×	×		調査報告		△							
401	4石狩	北海道開拓記念館	道	1971		堀(昆虫)・水 島(植物)	22	○	●	●	○	○	●	△	研究紀要・調査 報告・研究報告		○		57	31	7	19		
402	4石狩	北海道大学総合博物館	国	1998		大原(昆虫)・ 高橋(植物)	2	○	○	●	○	○	●	△	研究報告		○	○	○					
403	4石狩	札幌市博物館活動センター	市	2001		古澤(古生 物)・山崎(植 物)	2	○	○	○	○	○	●				○		2					
404	4石狩	札幌市豊平川さけ科学館	市	1984		有賀・岡本	3	○	●	●	○	○	×	●	館報	ボランティアの 会ikura	○	○	○	22	0	4	0	18
405	4石狩	石狩浜海浜植物保護センター	市	2000		内藤(植物)	1	○	○	○	△	○	●	●	調査研究報告	ふるさと自然 塾・石狩浜自然 案内人の会								
406	4石狩	いしかり砂丘風の資料館	市			志賀(地質)	3	○	○	△	○	○	●	●	エズチュアリ	いしかり砂丘の 風の会	○	○						
407	4石狩	北海道野幌森林公園ふれあ い交流館	道	2001				△	○	△	×	○	●				△							
408	4石狩	北海道大学農学部附属博物 館	国	1881					△	△	×	×	×						6	0	3	2	1	
409	4石狩	北海道大学植物園	国			富士田(植物)			○	○	○	×	●	△	研究論文		○	○						
410	4石狩	札幌市北方自然教育園	市	1988	2007				○	△	○	×	×						7	0	1	2	4	
411	4石狩	石狩地区地域防災施設 川 の博物館	財						△	△	△	×	●											
412	4石狩	恵庭市郷土資料館	市						○	○	○	○	●				△							
413	4石狩	支笏湖ビジターセンター	国			(環境省)			○	△	○	○	×			支笏湖ファン クラブ	○							

事務局で仮に作成しましたので、お持ちの情報で追加・修正・削除などしていただけると幸いです。

新No	エリア	名称	所有	設立	改修	職員	学芸員	研究会 会員	HP 201 0	HP 200 4	展示 解説	行事 案内	便利 NL	紀要・研究報告		友の会・ファン クラブ等	リンク			職員								
														Web	名称	名称	文化 資源	イ M u s	科学 館	合計	学 芸 員	専 任	兼 任	臨 時				
414	4石狩	ウトナイ湖サンクチュアリネイチャーセンター	財	1981		(野鳥の会)			○	○	○	○	×				「ウトナイ湖ファンクラブ」	○	○									
415	4石狩	千歳サケのふるさと館	財	1994					○	○	○	○	●	●	館報			○	○									
416	4石狩	ファールの森観察飼育舎	町						△	△	×	×	×				栗山オオムラサキの会	△										
501	5空知	滝川市美術自然史館	市	1986		半井	1		△	△	△	△	×					○		○	6	2	2	0	2			
502	5空知	富良野市博物館	市	1968	2002	上掘・澤田			○	△	○	○	●					△			2	1	1					
503	5空知	沼田町化石館	町	1995	2008	篠原(古生物)	1	○	●	○	○	○	×				ジュニア化石クラブ・科学教室	○	△									
504	5空知	三笠市立博物館	市		2010	栗原(古生物)		○	△	△	△	×	×	○	紀要			○										
505	5空知	宮島沼水鳥・湿地センター	市			牛山(鳥)		○	○		○	○	●				宮島沼の会											
506	5空知	美唄市郷土資料館	市	1981					△	△	△	○	×															
507	5空知	林業試験場 緑の情報館	道						○	△	○	×	●	●	林業試験場研究報告			△	△									
508	5空知	ほたるの里 ほたる学習館(沼田町)	町						△	△	△	×	×															
509	5空知	むかわ町穂別地球体験館	町						○	○	△	○	×							△	○	○	0					
510	5空知	滝川地区防災施設 川の科学館	財						△	△	○	△	●							○	△							
511	5空知	星の降る里百年記念館	市											×	年報													
601	6十勝	帯広百年記念館	市	1982		池田(鳥)	1	○	○	△	○	○	×	△	紀要・調査報告書			△	○	○	13	6	4	3				
602	6十勝	上士幌ひがし大雪博物館	町	1970		川辺(鳥)	1	○	△	△	○	○	×	△	研究報告	博物館友の会	△	△			3	2		1				
603	6十勝	足寄動物化石博物館(フォストリーあしよる)	町	1998		澤村(古生物)	1	○	○	○	○	×	●							△	○	○						
604	6十勝	浦幌町立博物館							△		△	×	×	×	紀要			△										
605	6十勝	忠類ナウマン象記念館	村	1988					△	△	△	×	×							△	△	△						
606	6十勝	広尾町海洋博物館	町						△	△										△								
701	7根釧	釧路市立博物館	市	1936	1983	橋本(鳥)・町生(魚)・松本(鳥)	2	○	○	○	○	○	×	×	紀要	博物館友の会	△				15	6	5	2	2			
702	7根釧	標茶町郷土館	町			辻(植物)		△	△	△	△	×	×	×	郷土館報告			△										
703	7根釧	阿寒湖畔エコミュージアムセンター	国	1968		若菜(植物)	1	○	○	○	×	○	×							△	△							
704	7根釧	根室市歴史と自然の資料館	市	1990	2004	近藤(鳥)	2	○	○		○	○	△	△	紀要			△										
706	7根釧	鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ ネイチャーセンター	財	1987		(野鳥の会)			○	○	△	×	●					○										
707	7根釧	塘路湖エコミュージアムセンター あるこつと	国	1997		(環境省)			○	○	○	×	×							△	△							
708	7根釧	もりのパレット川湯エコミュージアムセンター	国			(環境省)			○	○	○	○	×							○								
711	7根釧	阿寒国際ツルセンター(グルス)	町	1996		古賀	2	○	○	△	×	●								△	△	○	4	2	2			
712	7根釧	阿寒国際ツルセンター分館タンチョウ観察センター	町	1977					△	△	△	×	●								△							
713	7根釧	温根内ビジターセンター	国			(環境省)			△	△	×	×	×															
714	7根釧	浜中町総合文化センター郷土資料展示室	町	1987					△	△	×	×	×										5		5			
715	7根釧	霧多布湿原センター	町	1993					○	○	△	○	×							○	○							
716	7根釧	厚岸水鳥観察館	国	1995		澁谷(鳥)			○	○	×	○	●							○		○						
718	7根釧	標津サーモンパーク サーモン科学館	財	1991		(小宮山)		△	●	○	○	×	×							○		○	0					
719	7根釧	中標津町郷土館	町	1971	1983				○	○	○	○	×							○								
720	7根釧	根室市春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター	市	1995		(野鳥の会)			○	○	○	○	○	●						○								
721	7根釧	野付半島ネイチャーセンター	民	2002					○	△	○	○	×				野付半島ネイチャークラブ											



# 北海道自然史研究会 2009 年度総会 議事概要

2010 年 2 月 27 日

事務局／さっぽろ自然調査館・渡辺修

## (1) 会計報告・会費徴収

### ○事務局提案

2007 年度・2008 年度会計について報告した。

会費については、インターネット上での活動と大会開催が中心となっているため、徴収の必要性が低くなっている。そのため基本的には徴収せず、大会での費用等については、参加費として徴収することを提案した。

それに伴い、会則を以下のように修正する。

第14条 この会の経費は、寄付金等をもって当てる。

第15条 この会の会費は、徴収しない。

### ○意見・決議等

提案が了承された。

## (2) 事務局運営

### ○事務局提案

現在電子メールによる案内へ切り替えを進めており、次回以降は原則郵送連絡を廃止とする。

### ○意見・決議等

提案が了承された。

## (3) 役員役割明確化

### ○事務局提案

現在役員に関しては特に定まった役割はないが、大会の開催に関しては、開催地と連携して運営を担当する理事を明確化したい。会計・名簿管理・サイト管理・情報伝達などは、引き続き事務局が担当する。その他必要に応じて、役員会で担当理事を決める形としたい。

### ○意見・決議等

了承された。

## (4) 研究大会について

### ○事務局提案

大会は札幌開催を基本とし、開催時期も固定したい。ただし、地方からの希望があれば随時その地方で実施する。会場は札幌市博・北大博物館、時期は2～3月を基本に検討する。

次回大会は2011年3月8～12日に開催される生態学会本大会に合わせて北海道の自然史に関する自由集会を開き、それと連動する形で開催したい。また、以前から石狩での大会開催が検討されており、2010年夏か2011年夏にフィールドでの活動を含めた大会を検討したい。

### ○意見・決議等

札幌開催を主とすることについては了承された。具体的な開催体制については、役員で検

討する。

- ・生態学会との連動は、参加のしやすさと全国の自然史関係者との交流、市民へのアピールを目的としている。自由集会は2時間の規定のため、開催方法は検討する。
- ・自由集会も大会参加費が必要で、学生等にはハードルが高くなってしまう。
- ・自由集会は参加費不要と思われるが、現状を確認する。場合によっては、時期のみ合わせて、北大などでサテライトで開催することも検討する。

## (5)ウェブサイトの設置

### ○事務局提案

博物館などの施設のポータルサイト、研究報告などのデータ蓄積、情報交流の場として、ウェブサイトの構築を提案したい。展示施設・研究報告のデータベース化、ウェブ化の現状については整理してきているので、さらに情報収集に努めるとともに会員の協力を仰ぎたい。

### ○意見・決議等

提案が了承された。

## (6)研究報告誌等の発行について

### ○事務局提案

自然史の報告を出す場が減っているため、場を作るとともに情報の蓄積していくため、論文誌の定期的な発行を考えている。そのため、今後の一年でニーズの調査や方針の確定等を進める編集（準備）委員会を設置することを提案する。

また、ハンディサイズで学習用に広く使える小冊子を刊行していくことも検討しており、その検討を進めるワーキンググループの設置も提案したい。

### ○意見・決議等

提案が了承された。各種委員会などについては、参加方法・会合について事務局からメーリングリストで連絡する。

## (7)役員改選について

### ○事務局提案

保田会長、宇野理事から退任の希望があり、また事務局としては運営面の強化を図るために、札幌圏で運営に携われる役員を選任したい。

- ・川辺副会長を会長とし、古沢仁氏を副会長とする。
- ・会員の持田誠氏、志賀健司氏を理事とする。小宮山理事・大原理事・齋藤理事・浦理事・山崎監事を再任する。渡辺事務局長・丹羽事務局次長を再任する。
- ・大原理事の監事職兼務を解いて、新たに内藤華子氏を監事とする。

### ○意見・決議等

提案が了承された。

#### <事務局連絡先>

さっぽろ自然調査館 wata-os@cho.co.jp

メーリングリスト natural-h@cho.co.jp

〒004-0051 札幌市厚別区厚別中央1条7丁目1-45 山岸ビル3階

Tel 011-892-5306 Fax 011-892-5318

(別記第 1 号様式)

平成 22 年 3 月 15 日

財団法人前田一步園財団

理事長 前田 三郎 殿

住所 札幌市厚別区厚別中央 1 条 7 丁目 1-45 (事務局)

名称 北海道自然史研究会

代表者名 保田信紀

前田一步園財団自然環境保全活動助成申込書

下記の事業を行いたいので、前田一步園財団自然環境保全活動助成規程を熟知のうえ、同規程第 4 条の規定に基づき、助成金の交付を申し込みます。

記

1. 助成事業名 北海道内の自然史系施設のポータルサイトとガイドブックの製作
2. 助成事業概要 別紙の通り

(添付書類)

- (1) 定款、寄附行為またはこれに準ずる規定 (会則および団体概要)
- (2) 役員名簿
- (3) 業務概要書及び事業収支計算書
- (4) その他前田一步園財団の理事長が提出を求めたもの

## 前田一步園財団自然環境保全活動助成申請概要

1. 事業名称 北海道内の自然史系施設のポータルサイトとガイドブックの製作

2. 事業カテゴリ  調査研究  人材育成・普及啓発 (主たる事業種のみをチェック)

3. 申請団体概要 北海道の自然史研究発展と市民への普及に寄与することを目的とする

団体名称 北海道自然史研究会

法人格 財団・社団・その他 ( 任意団体 (NGO) )

設立 平成5 (1993) 年 2 月

住所 札幌市厚別区厚別中央1条7丁目1-45 山岸ビル3階 (事務局)

電話 011-892-5306 FAX 011-892-5318 E-MAIL n-h@cho.co.jp

代表者 氏名 保田信紀 (川辺百樹) 役職 現会長 (次期会長)

担当者 氏名 渡辺 修 役職 事務局長

4. 事業実施予定期間 (事業によっては準備・計画等の期間を含む)

平成22年4月～平成23年3月

5. 事業目的 (事業を計画するに至った背景や、事業が必要と考えられる理由、事業の実施により期待される効果等を記入)

道内の自然史系施設を紹介する既存のガイドブックやウェブサイトには、施設が網羅されていない、自然史自体の情報量が少ない、担当者の顔が見えない等の課題があり、道内の自然に関心を持つ人のニーズに応えられていない。そこで当会会員の協働により道内の博物館等を網羅した使いやすいサイトと冊子を製作する。博物館友の会等市民グループ間の交流や、広域的な一斉調査等各地域の施設が連携して取り組む機会を提供し、新たなネットワークの構築にも寄与する。

6. 事業内容

会員のネットワークを通じて道内の博物館施設と自然史研究者の最新のデータベースを作成し、これをもとにポータルサイトとガイドブックを製作する。サイトでは全館の施設情報に加え、行事予定の閲覧、研究報告等の検索、ダウンロードができるようにする。地域の研究報告はデジタル化が進んでいないため、本事業でpdf化とサイトアップを支援する他、各館に蓄積されている自然情報のデジタル化を進める。一般の自然史への疑問に学芸員等が回答する掲示板も設ける。冊子はこのサイトの情報のほか、会員のコラムやミニ情報のコーナー等により一般読者が楽しめるものにする。この冊子は各施設などにおいて頒価で販売する。また来年2月にサイトと冊子を広報するイベントを企画し、道外からも先行事例の専門家を招聘して発展・連携について考える。

## 7. 事業実施日程

年月日	事業実施活動内容	実施場所等
2010年4月	サイト編集委員会会合	札幌市
同 7月まで	サイト掲載情報の収集・フォーマット整備	札幌市・道内各地
同 8月	サイトシステム構築・サイト臨時オープン	札幌市
同 10月まで	研究報告データベース整備・デジタル化	札幌市・道内各地
同 12月まで	データ拡張・修正、冊子コラム等執筆	札幌市・道内各地
2011年2月	北海道の自然史集積のための市民フォーラム（仮）開催	札幌市
同 3月まで	冊子の編集・印刷・各施設へ納品	札幌市

## 8. 事業参加者・協力団体等

参加者・協力団体名	所属団体・参加形態
北海道自然史研究会	(実施者)
北海道博物館協会学芸職員部会	情報提供、協力

## 9. 収入予算概要

(内訳)	(金額)	(費目)	(確定・申請中等)
自己資金	315,000	冊子販売収益 @350x900	
一步園財団助成申請額	650,000		
参加費・会費等収入	223,000	会費と寄付	
	60,000	フォーラム参加費 @500x120	
その他、助成申請額		(未定)	
合計	1,248,000		

## 10. 支出予算概要

(費目)	(金額)	(積算内訳)
デジタルデータ作成・サイト作成費	260,000	データ入力・研究報告デジタル化(臨時アルバイト20日x@6,500)、サイト製作・管理の補助(10日x@6,500)、冊子の編集作業補助(10日x@6,500)
印刷費・発送費	522,000	自然史系施設ガイド冊子印刷費(A5無線とじ80ページフルカラー2000部,492,000)、写真借上げ費、梱包費など
講師謝金・旅費	255,280	フォーラム講演者(東京と兵庫の予定)の謝金(2名x@40000)、往復旅費(@32,770, @46,370)、宿泊費(2名x@8500)
編集委員会旅費	81,000	冊子の編集およびポータルサイトの編集のための編集員打ち合わせ費用(市内5名x4回x@500、旭川往復@9360x3回上士幌往復@13960x2回)、宿泊費(2回x@7500)
使用料・借上料・消耗品費	66,000	冊子の編集作業、サイト製作・管理に必要なパソコン・専門ソフトウェアのレンタル料(1年間分)、消耗品費
通信費、その他の経費	63,720	打ち合わせ・連絡用の郵送費、冊子送付時の郵送費、会議費、フォーラム会場費など
(合計)	1,248,000	

受付日	月	日
受理No.	—	
選考区分	環境保全	

右の選考区分にはB.事業分野で選んだ分野を記入してください。

**A. 応募団体の概要**

フリガナ 団体名	ホッカイドウシゼンシケンキョウカイ 北海道自然史研究会		団体 印	ホーム ページ	有る
住所	〒004-0051 札幌市厚別区厚別中央1条7丁目1-45 山岸ビル3階 さっぽろ自然調査館内		E-mail : n-h@cho.co.jp 固定電話 : 011-892-5306 携帯電話 : ファクス : 011-892-5318		
フリガナ 代表者	ヤスダノ ブキ 保田信紀		役職	会長	
法人格	無い	活動開始	1993年 2月から		
活動地域	北海道内	会員数	129名		
応募事業 の主体	同上				

**B. 事業分野** (環境保全、まちづくり、食・農実践、共生社会から1つ選び、記入してください。)

環境保全

**C. 事業の名称** (40字以内で記入してください。)

北海道内の自然史研究情報の集積とネットワークづくり

**D. 助成希望金額**

45万円

**E. 秋山財団助成実績**

無い

**F. 秋山財団以外の機関から受けた助成金・補助金** (過去2年間について記入してください。単位は、万円です。)

受領年度	機関名	助成内容・事業の名称	金額(万円)
	無い		

**G. 収支データ** (見込み金額でかまいません。単位は、万円です。)

前年度収支決算額	収入	5万円	支出	1万円
今年度収支予算額	収入	5万円	支出	1万円

**H. 応募事業担当者**

住所	〒004-0051 札幌市厚別区厚別中央1条7丁目1-45 山岸ビル3階 さっぽろ自然調査館内 北海道自然史研究会事務局		E-mail : n-h@cho.co.jp 固定電話 : 011-892-5306 携帯電話 : ファクス : 011-892-5318		
氏名(フリガナ)	渡辺 修 (ワタナベオサム)		役職	事務局長	

※ 項目A～Hの行数設定を変更させないでください。また、各項目はこのページに収まるように記入してください。

**I. 団体の設立の目的を記入してください。**

「北海道自然史研究会」は、自然史系学芸員を中心に北海道内の自然史に関するネットワークづくりのために 1993 年に立ち上げられた。北海道の自然に関心があれば誰でも参加可能で、幅広い層の共同による自然史研究の発展とその成果の普及を目指している。

学芸員の組織は他にも北海道博物館協会の学芸員部会などがあるが、自然史系に特化したものはなく、また公務員の集まりである博物館協会では活動に制約も多く、具体的な取り組みなどはほとんどなされていなかった。そのため、市井の自然史研究者も含めた幅広いネットワークをつくり、地域単位では難しい広域的な調査研究や普及活動を連携して実施したり、研究発表会を通して互いの取り組みを深化させるために結成した。

**J. これまでの活動実績を記入してください。**

1993 年 2 月設立

1993 年 09 月	野外研修会	上川町 層雲峡
1994 年 01 月	第 1 回研究会	札幌・開拓記念館
1994 年 10 月	第 2 回研究会	沼田町
1995 年 10 月	第 3 回研究会	様似町
1996 年 05 月	第 4 回研究会	黒松内町
1997 年 05 月	第 5 回研究会	美幌町
1998 年 05 月	第 6 回研究会	倶知安町
1999 年 10 月	第 7 回研究会	標津・サーモンパーク
2000 年 04 月	第 8 回研究会	旭川・旭川市博物館
2001 年 08 月	第 9 回研究会	平取・二風谷博物館
2004 年 03 月	臨時集会・総会 会員メーリングリスト開始	札幌・博物館センター
2004 年 12 月	2004 年度研究会	札幌・北大総合博物館
2005 年 10 月	2005 年度研究会	札幌・北大総合博物館
2006 年 07 月	2006 年度研究会	遠軽・丸瀬布昆虫生態館
2007 年 09 月	2007 年度研究会	登別・ヒグマ博物館
2010 年 02 月	2009 年度研究会 ウェブサイト準備室開設	札幌・博物館センター

**K. 活動上の課題について記入してください。**

会員のほとんどが有職者であり、事務局も専従のものを置いているわけではないので、活動に割ける時間に制約があり、今までは限定的な取り組みしか出来ていなかった。資金面でも会費と寄付を主体としているため、専従の事務員や事務所を持つことは難しい。

また、会員が全道各地にいるため、会議や研究大会の開催には、旅費や時間コストがかかり、集合もままならない面がある。さらに各市町村の学芸員や職員数も削減傾向にあり、各会員の積極的な活動参加も難しい状況にある。

ただ、現在はインターネットの発達により、情報の共有や発信が容易になってきている。2004 年よりメーリングリストを開設し、情報交換・共有に努めてきているが、さらに今年度よりウェブサイトの開設準備を進めている。これにより、各地域では困難だった情報の集積やポータルサイト化、一般市民との接点を増やすことに重点を置く体制を整えたいと考えている。

※ 項目 I～K の行数設定を変更させないでください。また、各項目はこのページに収まるように記入してください。

## L. 応募した事業の概要を説明してください。

### 1. 事業を行うに至った経緯

北海道内には博物館など地域の自然史を紹介する施設が多くあるが、ほとんどの施設が資金・人員不足のために、調査・研究してきた自然史情報や研究報告をデジタル化しておらず、ウェブ上にも掲載していない。これらは北海道の自然を知り保全活動や環境教育活動を行なう上で重要なものであるが、ウェブ上で検索しても見つからず活用できない状態にあり、地域の財政悪化とともに埋もれてしまう危険性がある。また、地域の自然を観察したり調査したりする環境系市民グループの活動成果にも貴重な情報があるが、それらの多くは少数の会員に配布される会誌の中のみにとどまっている。これらの情報を集積し、多くの人が利用できる形態へと転換を進めたい。

### 2. 事業の目標

当研究会は道内の自然史系学芸員を中心に構成されており、各施設の研究報告や地域の市民グループの情報を入手しやすい立場にある。それを生かして、自然史情報の効率的な収集を図り、それを通じて各施設・団体のネットワークの充実を図り、自然史研究のみならず、自然保護活動、環境教育に貢献することが期待できる。収集した論文や情報はデジタル化して集積し、当会のサイトから誰でも自由に検索、ダウンロードできるようにする。道内の博物館が発行する論文集や年報は、自然情報の宝庫であるにもかかわらず一般には入手が困難で、特に道外への発信はほとんどできなかったが、このサイトを設立することにより、多くの情報を保存し発信できるようになる。

### 3. 事業の新しさ

文献・書籍のデジタル化は民間・行政の双方とも取り組みがなされているが、その進行は必ずしも早くなく、北海道という一地域の自然環境に関する情報がそのネットワークに入るまでには多大な時間を要する恐れがある。それを本研究会の構成員の力を生かして一気に達成するとともに、それらが集積したポータルサイトをつくることで、北海道の自然環境の保全や教育・普及活動に活用しやすくなる。また、これらの論文や会誌は収益を上げることを目的としたものではないため、デジタル化に伴うデータの無料化の問題を懸念する必要性が低いことも重要である。

### 4. 事業の地域への波及効果

このポータルサイトが道内の自然紹介施設の新たなインターフェースになり、各施設の情報へのアクセス性を高め、地域の自然への関心を高める手がかりになる。また、サイト上での博物館友の会や市民グループどうしの交流など、新たなネットワークの構築にも寄与でき、広域的な一斉調査や観察会の実施に発展することも期待できる。

## M. 応募した事業が目指す新たな公共の担い手育成について説明してください。

過去に取り組まれた調査・研究のデータベース化は、将来それに取り組もうとする市民のレベルアップの場となり、成果を発表する場を生み出すことにつながる。地域の自然環境の情報収集は、行政機関や大学等のみが担うのでは不十分で市民レベルでの取り組みが広がることが重要と考えている。

今回計画しているポータルサイトは、今後の新たな自然史研究の発表の場としても期待できる。地域の自然環境の研究は、一つ一つの発見が学術的には小さなものであったり、記録する動植物のリストが膨大で印刷して発表できる場が無いことがしばしばある。そのような場合、出版のコストが低いデジタルデータ（電子出版）で半永久的に情報として残すことができ、ウェブという多くの人が閲覧する可能性がある場として、このサイトは機能できる。地域の自然に関する情報やさまざまな取り組みを記録しようという市民の手助けとなることで、保全活動や環境教育活動を支援できると考えている。

本事業が取り組むことは、本来行政が資金と人的資源を投資して達成すべきものと考えられる。しかし実際には、行政の取り組みでは非常に非効率的で、時間がかかる上に利用者が使いにくいものができる可能性も高い。特に、複数の自治体や行政機関が関わる必要がある課題についてはその傾向が強く、本会のような第三者機関が収集と選別、利用者との対応を進めるほうがよいものと考えている。

## N. 応募した事業に関する作業日程と作業内容について説明してください。

### 1. 研究報告・会誌情報の収集（～7月）

会員のネットワークを通じて、研究報告や市民団体の情報を収集する。

### 2. データベース・サイト構造の検討（～9月）

利用しやすい構造を検討、設計する。

### 3. ウェブ公開の許諾確認（市町村、著者）、協力市民団体のヒアリング（7～10月）

情報を目次ベースのもの、本文データがあるもの、デジタル化の必要があるものに整理し、利用許可を得る。

### 4. デジタルデータの変換、紙データのスキャン・データ化（9～1月）

データがあるものは変換し、紙データは専用スキャナ・ソフトを用いてデジタル化（透明テキストPDF）する。

### 5. ポータルサイトの構築とデータの格納、データベース化（1～2月）

作成したデータをデータベース化し、サイトから自由に閲覧・ダウンロードできるようにする。

### 6. データベースの紹介カードの作成（3月）

サイトとデータベースについて広報するカードを作成し、各施設・団体に配布する。

※ 項目L～Nの行数設定を変更させないでください。また各項目はこのページに収まるように記入してください。

○. 応募した事業に取り組むメンバーとそれぞれの役割分担について説明してください。

○渡辺 修 (さっぽろ自然調査館)	全体総括、サイト・データベース設計
○丹羽真一 (さっぽろ自然調査館)	研究報告・市民団体冊子収集、サイト検討
○山崎真実 (札幌市博物館活動センター)	研究報告・市民団体冊子収集、サイト検討
○持田 誠 (北大総合博物館)	研究報告・市民団体冊子収集、許諾確認
○齋藤和範 (旭川大学地域研究所)	研究報告・市民団体会誌収集、許諾確認
○川辺百樹 (上士幌町ひがし大雪博物館)	研究報告・市民団体会誌収集、許諾確認

※各地で自然の調査・紹介をしている市民団体からは、データベースに載せたい・載せられる会誌・ニュースレター等の情報を収集し、デジタルデータがあるものは提供してもらう。

P. 助成金の使途について説明してください (合計を希望金額に合わせてください。単位は円です。)

費 目	内訳 (単価・数量・人数など)	費用 (円)
デジタルデータ作成・サイト作成費	データ入力・研究報告デジタル化 (臨時アルバイト 20 日×@6,500)、サイト製作・管理の補助 (10 日×@6,500)	195,000
印刷費・発送費	収録データ一覧と使い方紹介カード印刷費 (A4 両面フルカラー、コート紙 220kg、3000 枚)、発送 30 箇所×@500	70,000
編集委員会旅費	サイト・データベース作成のための編集打ち合わせ、市民団体ヒアリング費用 (市内 4 名×3 回×@500、旭川往復 1 名×@9360×3 回上士幌往復 1 名×@13960×2 回)、宿泊費 (2 回×@7500)	77,000
物品費・消耗品費	ドキュメントスキャナー (キヤノン DR-2510C)、OCR・PDF 作成ソフト (PDF Works 作成・編集・変換 キャンペーン版)	75,000
通信費、その他の経費	消耗品費 (紙、トナー代など)	33,000
	打ち合わせ・連絡用の郵送費、会議費など	
	合 計	450,000

Q. 応募した事業の中期的な実施計画 (3~5 年間) について説明してください。

データベースを搭載したサイトは長期的に運用しなければ意味が無い。長期的に掲載し、市民 (利用者) からの要望や利用状況をモニタリングする。

収録可能な博物館等の研究報告誌は道内に 36 程度、市民団体の会誌なども 20 程度あると考えられる。本事業では体制の確立と、これらの目次レベルのデータベース化と 10~20 誌の全文デジタル化を目指す。そして電子利用の許諾を進めながら、年 10 誌程度のペースでデジタル化を進め、3~5 年で道内の基本的な自然情報が集積された状態を目指したい。そのため、今回確立されるスキャニング・データ化体制を活用して、低コストでのデータ化を進める。それと並行して、新たな論文の投稿を受けて、独自の情報・論文の集積も行ない、過去の情報を上回る情報の集積を目指したい。

※ 項目○~Qの行数設定を変更させないでください。また各項目はこのページに収まるように記入してください。

## 団体等に関する資料

団体等名称 (個人)	
設立年月日	年 月
会員数	名
主な活動地域	
活動の目的および概要	(活動趣旨・目的)
	(活動実績)

## 収支予算書

## 1、事業費（収入）

区 分	予 算 額 (円)	説 明
自己資金		
その他		
財団助成金		
事業費合計		

## 2、事業費（支出）

主な経費	予 算 額 (円)	説 明
合 計	円	

# 事業計画書

事業名	
事業期間	平成 年 月 ~ 年 月
事業の内容	(目的)
	(地域)
	(実施方法)
	(期待できる効果)